





陀峯山から望む江田島湾（大柿町深江地区）

江田島市へようこそ！
自然のまち

青い海と、緑豊かな

ごあいさつ

江田島市は、平成16（2004）年11月1日に、

江田島町、能美町、沖美町、大柿町の4町が合併

して誕生しました。

「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」を、目指す将来像に掲げ市制施行10年を迎えた今、新たに「協働と交流で創りだす『恵み多き島』えたじま」を目指す姿に掲げています。

この実現に向けて、未来を切り開くまちづくりを、市の名称で表現しました。

② 「絵になる島」～瀬戸内海で最も美しい景観の島の実現～

③ 「楽しめる島」～海や島の自然を生かした観光・交流人口の拡大～

④ 「自慢できる島」～地域ブランドと人材育成による新たな魅力づくり～

⑤ 「また来たい島」～リピーター獲得に向けた環境整備～

本誌は、「え・た・じ・ま」をキーワードに、江田島市の自然や歴史など、様々な側面からその魅力を紹します。本誌が、市民の方にはふるさとの素晴らしさを再発見するきっかけを作り、市外の方には恵み多き島への招待状になることを願っています。



～今をむすぶ～	
～絵になる島～	31
～楽しめる島～	30
～自慢できる島～	29
～また来たい島～	28
～江田島市の宝物～（自然と情熱がはぐくんだ特産品）	27
～未来をむすぶ～	26
江田島市の将来像	25
教育・文化部門	24
産業・観光部門	24
福祉・保健部門	25
生活・環境部門	26
安心・安全部門	27
基盤部門	28
地域部門	29
～夢をむすぶ～	30
～絵になる島～	4
～楽しめる島～	8
～自慢できる島～	14
～また来たい島～	18
～江田島市の宝物～（自然と情熱がはぐくんだ特産品）	22
～未来をむすぶ～	22
江田島市の概要	23
江田島市への招待状	24

CONTENTS



江田島市の概要

瀬戸内海の恵み多き島



※1 平成28年8月から能美支所
※2 平成28年8月から江田島市役所



○位置と地勢

江田島市は、自然との共生・都市との交流による、「海生交流都市」を目指すまちです。広島県南西の広島湾に浮かぶ江田島・能美島を中心に大小9つの島々で構成されており、東西約12キロ、南北約19キロで面積は約100.98平方キロメートルに及びます。宇根山（野登呂山／標高542メートル）や陀峯山（標高438メートル）など、山地や丘陵地が島の大半を占めますが、変化のある海岸線や平地など眺望に富んだ地形となっています。

国道487号と主要地方道や県道が沿岸部を走り、美しい瀬戸の風景を楽しみながら島内を周遊することができます。そして、バス路線によって市内の主な港や市街地・集落地が結ばれています。

○産業
温暖で雨の少ない瀬戸内海特有の気候を活用して柑橘類・花・野菜の栽培が盛んで、近年はオリーブの産地化に取り組んでいます。3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）の特産品が多く、特にカキは広島県を代表する生産地の一つです。

○交通と交流

中国地方の中核都市、広島市からは海上約7.5キロの至近距離にあり、広島港からフェリーや高速船で手軽にアクセスすることができます。また、呉市とは2つの音戸大橋、早瀬大橋の両架橋によって結ばれ、実質的には陸続きとなっています。近年、旅客ターミナルなど港の整備も進んでいます。また、江田島市の素晴らしいしさを多くの方に知っていただきため、島特有の文化や歴史にふれる「体験型修学旅行」などの交流活動を推進しています。全国からたくさんの人たちが訪れ、まちの人たちと親交を深めており、その中からリピーターになり、UJITARENして来る方も増えています。



海の玄関口

近年、江田島市の港湾の整備が着々と進んでいます。平成19（2007）年は小用港（小用桟橋）に、翌20（2008）年には中町港（中町桟橋）に、海上旅客交通の拠点となる「旅客ターミナル」が完成しました。また、小用港は平成26（2014）年に、国が港の交流促進とにぎわいづくりに活用する場として「みなどオアシス」に認定されました。交通広場や緑地広場が拡充され、「えたじまポートラザ」や「江田島市カキ祭」など、多彩なイベントの舞台となり、年間を通じたにぎわいを創出しています。



沖美町三高地区を望む（江田島町大須地区）



「夢をむすぶ」

～自然との共生・都市との交流による海生交流都市～

江田島市は、自然との共生・都市との交流による海生交流都市です。

美しい海と豊かな自然の中、多くの人の夢をむすぶまちづくりを進めている江田島市。

「え・た・じ・ま」をキーワードに、美しい景観やにぎわい、ブ

ランド化や歴史、そして地域間交流などを、そこに住む人たちの活

力とともに紹介します。

④ 「絵になる島」～瀬戸内海で最も美しい景観の島の実現～

⑤ 「楽しめる島」～海や島の自然を生かした観光・交流人口の拡大～

⑥ 「自慢できる島」～地域ブランドと人材育成による新たな魅力づくり～

⑦ 「また来たい島」～リピーター獲得に向けた環境整備～

瀬戸内海の多島美

江田島市は、人が居住している江田島・能美島のほか、大黒神島、小黒神島、大奈佐美島、小奈佐美島（絵の島）など、大小9つの島々からなり、変化のある海岸線と相まって独特的の多島美を作り上げています。市内は山地が多く、標高542メートルの宇根山（野登呂山）を筆頭に、陀峯山、三高山（砲台跡）古鷹山など、標高400メートル代の山々があるため、山頂などから、カキ筏の間を白い航跡を作つて走る漁船など、素晴らしい眺望を楽しむことができます。

江田島湾に広がるカキ筏と古鷹山



広島湾一面に広がるカキ筏（沖美町高祖地区）

夕陽の沈む柿浦地区。遠くに大黒神島。

北に120万都市の広島
東に呉、南に瀬戸内の島々
そして西に世界遺産の宮島と
360度広がる景色は
それぞれに個性的な
演出をしてくれます。





桜やサツキなど花々に彩られた春、真っ白な砂浜が人々を誘う夏、紅葉が鮮やかに萌ゆる秋、澄み切った空と海が美しい冬。江田島市の自然は、季節の移ろいに合わせて、様々な表情を見せてくれます。

また、陽光を浴びて段々畳に実ったみかん、早朝に筏から水揚げされるカキ、ハウスの灯りに照らされた菊。温暖な気候のもと、自然と対話し、心を込めて海の幸、山の幸を作り上げる人々の営みも、忘れられない景観を創りだしています。

自然と人の営み



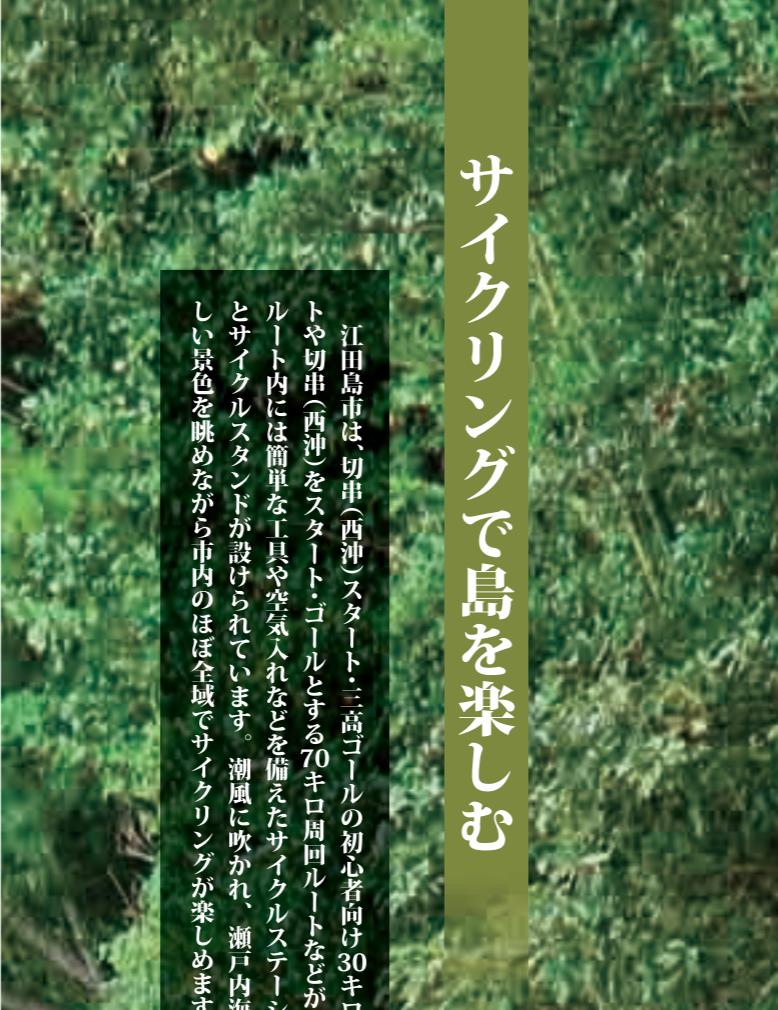


サイクリングで島を楽しむ

江田島市は、切串(西沖)スタート・三高ゴールの初心者向け30キロルートや切串(西沖)をスタート・ゴールとする70キロ周回ルートなどがあり、ルート内には簡単な工具や空気入れなどを備えたサイクルステーションとサイクルスタンダードが設けられています。潮風に吹かれ、瀬戸内海の美しい景色を眺めながら市内のほぼ全域でサイクリングが楽しめます。

かきしま海道サイクリングロード

広島県では、サイクリストの利用実態や、意見に基づき推奨されたコースにブルーラインが整備されています。その1つが江田島市の切串港(西沖)から呉市のJR呉駅までを結ぶルートの「かきしま海道サイクリングロード」です。瀬戸の島々を横目に江田島市の町並みを走り抜けます。



島を五感で楽しむ

江田島市の豊かな自然を満喫できるイベントが、「SEA TO SUMMIT」(シー・トゥ・サミット)です。波穩やかな瀬戸内海でのカヤック、心地よい潮風と緑豊かな自然を楽しむサイクリングやトレッキングで、海から山頂までの自然を体感できます。また、江田島市は森や山も魅力がいっぱいです。明治時代に建設された砲台跡が残る三高山創造の森森林公園、桜の名所として知られる江田島公園、スポーツを中心としたレクリエーションが楽しめる鹿田公園、バードサンクチュアリのある鹿川水源地公園など、四季を通して美しい自然が満喫できます。



- 1 2 3 SEA TO SUMMIT 4 三高山(砲台跡)
5 江田島公園 6 古鷹山
7 鹿川水源地公園 8 鹿田公園



海がきれいで景色が素晴らしい、交通も便利。江田島市は全国に誇れるフィールドです。

江田島カヌークラブ 玉山義雄さん



「江田島カヌークラブ」は、カヌーを通して、人と人とのふれあいや交流を促進することを目的に平成21(2009)年に結成されました。中心メンバーの玉山義雄さんは、沖美町の海の美しさにひかれ、東京から移住してきた方で、カヌーには江田島市に住み始めてから目覚めました。

「海と近い目線で、ゆっくり自分のペースで漕げることが魅力。浮かんでいるだけで爽快な気分になれます。江田島市は景色も素晴らしい、特にヒューマンビーチ長瀬

周辺は波や風も少なく、最高の環境。公共機関を使って徒歩で来れるカヌーのフィールドはほかにないでしょう」

同クラブでは、一般の方向けのカヌー教室やカヌーツアーも盛んに開催。民泊で訪れた修学旅行生にも教えていま

す。

「子どもたちもとても楽しそうですね。江田島市はとにかく自然が素晴らしい。クラブの活動を通して、その魅

力をどんどん情報発信していきたいです」



広島市や呉市在住の方も含め、現在40人のメンバーがおり、カヌー製作からツアー、餅つき大会や宴会まで、幅広く楽しんでいます。



江田島市周辺は波が穏やか。気候も温暖なので、1年を通してカヌーやスタンドアップパドルボードが楽しめます。



緩やかな波間の江田島湾を望むヒューマンビーチ長瀬。バリアフリーにも配慮しています。



夏はもちろん、江田島市には年中楽しめる美しい海があります。ヒューマンビーチ長瀬、入鹿海岸そして、広島県の自然海浜保全地区に指定される長浜海水浴場などのビーチリゾートが点在しています。そこでは、海水浴や魚釣り、カヌー、スタンドアップパドルボードなどのマリンスポーツを堪能することができます。また、「カヌー＆寺子屋体験インえたじま」など、海を中心とする体験イベントが定期的に開催されており、初心者も気軽に参加できます。

海で遊ぶ

海の駅

海から江田島市に訪れる人のため、船舶係留施設、トイレ、給油・給水設備などを備えた「海の駅」が、「沖野島マリーナ」と「国民宿舎能美海上ロッジ」の2か所にあります。

※この写真は沖野島マリーナです。



市民主役のイベント

江田島市では、1年を通して多彩なイベントが開かれています。春は、だれもが気軽に参加できる「かき力キマラソン」、「グリーンウォーキング」。夏は、カヤック・自転車・登山の3種目で競う「SEA TO SUMMIT」、海上自衛隊第1術科学校を舞台に、夜空に彩る大輪の花火が見どころの「サマーフェスタ江田島」。

秋は、潮風とともに走る「ヒロシマMIKANマラソン」。イベント盛りだくさんで、カーフェリー「ドリームのうみ」が縁により、気仙沼から届けられたサンマも味わえる「フェスティバル江田島」。

そして、冬は何といっても、本場のかきを味わうことができる「かき祭」。どのイベントも、市外からの参加者が多く、地元ボランティアスタッフの心からのおもてなしもあり、大いに盛り上がります。



夢をむすぶ

江田島市を体験

①レース後は、焼きガキを堪能できる「かき力キマラソン」。②盆踊りと第1術科学校の生徒や市民団体によるアトラクションが祭りを盛り上げる「サマーフェスタ江田島」。③カラフルなウエアに身を包んだランナーが各地から集まり、島の道を彩る「ヒロシマMIKANマラソン」。④殻付きカキの試食や新鮮なカキの販売などが行われる「力キ祭」。

5

6

1

2

3

4

487



地元のボランティアが
市民参加型マラソンを
盛り上げる

ヒロシマMIKANマラソン

お祭りやスポーツイベントを成功させるためには、地元のボランティアの方々の力が欠かせません。「ヒロシマMIKANマラソン」は、選手の受付をはじめレース中の給水や警備など、たくさんの市民ボランティアスタッフが大会運営に貢献しており、参加者と地域の方々との心温まる交流が生まれています。また、江田島市にはNPO法人「江田島市スポーツ振興協議会」や総合型地域スポーツクラブ「江田島eスポーツクラブ」があり、スポーツの振興とイベントでのボランティア活動も行っています。

コラム

太陽の光を浴びて、 今、オリーブの物語が始まる

1 「収穫からどれだけ短い時間で搾油するかで、良いオリーブオイルかどうかが決まります」と江田島オリーブ株式会社の吉本健吾さん。平成27(2015)年以降の商品化を目指しています。2 3 広島県で初めて導入された小型オリーブ搾油機を備えたオリーブ加工場は、沖美町の旧沖中学校にあります。



官民が協力して 新しいブランド作りに取り組む

平成23(2011)年には、地元企業、市、農協などが協力し、「江田島オリーブのブランド化」を目指す「江田島市オリーブ振興協議会」を設立。栽培から塩漬け作りまで、市民対象の「オリーブ講習会」を定期的に開いています。

平成26(2014)年には、大柿町深江釣附地区に約8ヘクタールに及ぶ全国最大規模のオリーブ園を造成。観光も含めた6次産業化を目指して、オリーブ園と加工場を巡る「オリーブ園ツアーア」も実施しています。

最高のものが 提供できるまで、あともう少し

オリーブ加工場は沖美町の旧沖中学校にあり、広島県初の小型オリーブ搾油機を導入しており、運営はオリーブ振興協議会が行っています。

「エキストラバージンオリーブオイルの基準を十分に満たすオイルが作れるようになつてから、江田島ブランドとして全国に発信していくたいです」と、江田島オリーブ株式会社の吉本健吾さん。多くの人たちの努力が実る時が、もうすぐ訪れます。

1 2 4 5 オリーブの実を摘み、選別→粉碎→遠心分離→ろ過を経て、冷暗所で約2週間静置し、オリーブオイルを作ります。
3 オリーブの塩漬けはお茶受けはもちろん、お酒のおつまみにもぴったりです。



自然
が
むすぶ

コラム

60年前から校庭に オリーブと江田島市の縁

大柿町の柿浦小学校に、誰が植えたのか不思議な木がありました。秋にはみんなで実を投げて遊び、その木は名前も分からず、60年間子どもたちに愛されてきました。その木がオリーブだと分かったのは、江田島市が栽培に取り組み始めてからです。オリーブの寿命は数百年、数千年にも及びます。これからもずっと、私たちを見守ってくれるでしょう。



オリーブ栽培に最適な江田島市の風土

「温暖で晴天の多い気候が栽培に適している、高齢者や女性でも栽培できる、耕作放棄地を解消できる、健康増進に効果があり国産品には高い付加価値があるなど、オリーブにはたくさんのメリットがあるんです」と、江田島市オリーブ振興室は太鼓判を押しています。また、平成22(2010)年から苗木の助成配布をスタートし、栽培面積の拡大を図っています。現在では市内に約9000本のオリーブを植栽しています。

オリーブ向き、塩漬け向きなど用途に合わせて、ネバディロ・ブロンコ、マンザニコ、ミッショニン、ルツカの4種を栽培しており、平成26(2014)年からはオリーブの実の買い取りを始めました。

歴史の誇り

古墳時代の遺跡もあり、古くから瀬戸内海の交通の要衝として栄えていた江田島市。明治21（1888）年に海軍兵学校が移転し来てからは、「海軍の島」として、全国に知られるようになりました。山本五十六、秋山真之、井上成美など、たくさんの逸材を輩出し、中には国際協調や軍縮を進めた人たちもいました。江田島市には、激動の歴史を伝える貴重な建物が数多く残されており、旧海軍兵学校をはじめ現役で使われていることも特徴です。島を歩き、今も息づく歴史の息吹を感じてください。



じ
慢
むすぶ
夢をむすぶ
自慢できる島
江田島市の自慢

歴史を知り、平和の意味を考える場所

旧海軍兵学校
海上自衛隊第1術科学校・幹部候補生学校

旧海軍兵学校は、明治21（1888）年に東京の築地から移転して以来、イギリスのダートマス、アメリカのアナポリスと並んで世界三大兵学校と称され、若い人の憧れを集めてきました。現在は、海上自衛隊の第1術科学校及び幹部候補生学校となっており、明治から昭和初期に建てられた歴史的建造物が現役の施設として活用されています。広報の一環として構内見学を実施しており、毎年約7万人が訪れる江田島市を代表する観光スポットとなっています。教育参考館には、旧海軍関係の貴重な資料が展示されており、神風特攻隊員たちの遺書をはじめ、国を守るために死んでいった人たちの思いが、見る人の胸を強く打ちます。

「ここには様々な歴史のエピソードがあるので、見学者の求めておられることに合わせてお話しするよう心がけています。私の手を握って感動を伝える方もいて、毎日忘れられない出会いがあります」とガイドを勤める竹野孝さん。わが国の歴史を振り返り、平和の大切さを考えいくためにも、ぜひ訪れていただきたい場所です。



① 通称「赤レンガ」と呼ばれ全国的に有名な、明治26（1893）年建造の旧海軍兵学校生徒館（現・幹部候補生学校庁舎）。建物全体を艦船に見立てているため、入口にはドアがありません。一直線に続く長い廊下でも知られています。右横に建つ白い建物は大講堂。② 大正6（1917）年建造の鉄骨煉瓦石造の大講堂。外壁には倉橋島など瀬戸内海産の御影石を使い、内部はほぼ吹抜けとなっており、音響効果の良さでも知られています。③ 「ここを起点として周遊型の観光ルートを作ることができたら」とガイドの竹野さん。④ 昭和11（1936）年建造の教育参考館。勝海舟をはじめ著名な海軍関係者の書や特攻隊員の遺書など、貴重な資料が約1万6千点収蔵されています。



① 広島市で生まれ、神戸市で建築を学んだ後、父親のふるさとである江田島市に移住した南川さん。観光アシスタント「江田島さくらプリンセス」も務めました。② 海軍下士卒の娯楽兼福利施設として明治時代後期に建てられた「海友舎」は、終戦後、民間に払い下げられ、洋裁教室を経て、会社の事務所として、近年まで現役で使われていました。明治時代の木造建築の様式を伝える非常に貴重な建物で、当時の下士卒の集会所は全国でもほとんど残っていません。③④⑤⑥ 市内外の江田島を愛する人たちが海友舎を自分たちの手で利活用するため集まった「ぐるぐる海友舎プロジェクト」。様々な特技を持った人材が、「手入れをする」「使う」「学ぶ」「発信する」といった活動を行っています。



月に1回集まって定期的に行っている活動
③④⑤⑥ 海友舎の掃除の様子 ⑤⑥ 部活動の様子（手芸部・美術部）

浜田省吾さんがロックに目覚めた島

シンガーソングライターの浜田さんは、9歳から13歳まで、多感な少年時代を江田島で過ごしました。浜田さんは、江田島のことを「ビートルズに出会い、音楽に恋をした『初恋のきた島』だ」と語り、「江田島ペンダント」に象徴されるように江田島を愛し、何度も帰島しています。

浜田さんが通っていた鷲部小学校の跡地に建てられた江田島図書館の中庭には、通学で利用していたバス停の「浜省ベンチ」をはじめ、珍しい写真や資料が展示されており、平成24（2012）年6月からファン交流の場として「浜田省吾 ON THE ROAD 江田島」がオープンしています。

今では全国からファンが訪問し、ベンチに腰掛け「浜省ポーズ」で記念写真を撮ったり、地元の高校生が作成したリーフレット「初恋のきた島 江田島」を手に「海辺の田舎町」を散策したり、正に「浜省ファンの聖地」となっています。

児童や生徒は民泊家庭で、お客様としてではなく家族の一員として夕・朝食作りや台所の片付けなどを体験し、民泊家庭の方と心からの交流を持ち、人との関わり方や家族の絆などを学びます。また、農業・漁業体験を通じて、地元の農産物や海産物の新鮮な味覚を体験することにより、生きることに欠かせない食の大切さを考えます。

ご登場いただいた沖美町の三戸さんご夫婦は、7年前に神戸市からUターンし、スタート時から民泊家庭に登録。現在まで20組の体験型修学旅行を受け入れられています。



「もてなすだけでなく、子どもたちと一緒に、同じ時間、同じ体験を楽しんでいます」

三戸喜代晴さん、和子さんご夫婦

子どもたちがやって来る1週間前からスケジュールを考えて準備をはじめ、その子らのお父さん、お母さんになったつもりで、常に心から迎えられるよう心がけています。農業体験では、横の畑でサツマイモを掘ったり、漁業体験では、大黒神島あたりまで船を出して釣りをしたりしています。釣った魚と一緒にさばいて食べると、とても喜んでもらえますね。食事の時の会話が大事なので、テレビはつけず、学校のことや家族のことなどいろいろなことを話します。ちょっとやんちゃな子が来ることもありますが、話してみるとみんな良い子ですよ。星空を見に、浜辺を散歩することもありますよ。でも、教育の一環ですから、時間を守り、行動はきちんとしてもらいます。「楽しかったので、大きくなったらこんな仕事をしたい」と言ってもらった時はうれしかったですね。「大学生になったら、必ずまた来ます」という子も多いです。子どもたちから手紙をもらうと、やっていて本当に良かったと思いますね。これからも、もてなすだけでなく、ともに楽しむ気持ちで、たくさんの子どもたちと絆を結んでいきたいですね。

1 三戸さんご夫妻。「民泊の仕事があるので、いつも具体的な目標があり、老後の生きがいができました」。**2** 家のすぐ横にある畑で、季節の野菜の収穫体験も行っています。**3** **4** 子どもたちの写真や手紙を入れたファイルは、三戸さんご夫妻の宝物です。

「心の交流を通して、人との関わり方や家族の絆、食の大切さを学ぶ」

平成23（2011）年に江田島市の交流人口を増やすため、市や住民でつくる「江田島海生体験交流協議会」が発足し、翌平成24（2012）年10月に修学旅行生の民泊受け入れがスタートしました。当初は8世帯でスタートした民泊家庭も今では120世帯に増え、平成26（2014）年度は小・中学校、高校合わせて過去最多の21校、約1700人が島を訪れます。

児童や生徒は民泊家庭で、お客様としてではなく家族の一員として夕・朝食作りや台所の後片付けなどを体験し、民泊家庭の方と心からの交流を持ち、人との関わり方や家族の絆などを学びます。また、農業・漁業体験を通じて、地元の農産物や海産物の新鮮な味覚を体験することにより、生きることに欠かせない食の大切さを考えます。

ご登場いただいた沖美町の三戸さんご夫婦は、7年前に神戸市からUターンし、スタート時から民泊家庭に登録。現在まで20組の体験型修学旅行を受け入れられています。



江田島市では、江田島のありのままの生活を、地元の家族と一緒に体験することで、心の交流を図る「民泊」を進めています。お客様としてはなく家族の一員として、ともに食事を作り、農業・漁業を体験することにより、島の豊かな食・生活文化、産業にふれたことは、忘れられない思い出となることになります。お客様としてではなく泊泊サボーラー等が修学旅行や各種社会人研修、家族での利用などに幅広く対応します。ここでは、入島式から離島式まで、民泊の流れを時間を追って紹介します。

思い出が生まれる



体験型修学旅行の流れ

※1泊2日で来島した場合のスケジュール例。



空き家バンク制度

江田島市交流促進課では、移住や定住を希望される方に物件をご紹介する「空き家バンク」を進めており、現在約30軒の登録があります。業者などに委託して空き家の清掃を行う場合、費用の一部を補助する「空き家清掃補助」や、住宅を新築または購入される場合、費用の一部を助成「物件購入費補助金」も用意しています。

ご登場いただいた西村さんご一家も、「空き家バンク」を利用して、沖美町の一軒家を見つけ、広島市からIターンして来られました。

 人が
むすぶ

「子どもを育てるなら自然の中でと考えていました」
西村さんご一家（強さん、朋子さん、悠くん）

移住を決意したのは、沖美町出身の友人の紹介で沖美町の保育園跡で結婚記念パーティを開いたのがきっかけです。広島市の仕事場まで通えるかどうか不安だったのですが、子どもを育てるなら自然の中でと考えていたので、やればできるんじゃないかなと。この家は「空き家バンク」で見つけました。家を出るとすぐに海が見え、すごく安らぎます。夕日が無茶苦茶きれいで、ボーっと見ているだけでも癒され、生きるエネルギーがわいてきますね。今はバイクで通っていますが、広島市に入ると体がキュッと堅くな

り、逆に橋を渡って帰ってくると体が楽になるのを感じます。都市の風景は人の体を緊張させますが、江田島市の風景は自然がいっぱいです。子どもは全身が感覚器官なので、子どものためにも良かったと思います。海や山に遊ぶ場所がたくさんあり、子どもを見るいろんな人が声をかけてくださるので、知り合いが増えました。特にお年寄りには、自分の孫のように大切に思っていただいているです。



西村さんご一家。「江田島市の人にとっては当たり前すぎて良さが分からないようなことを、私たちのように移住者の視点からアピールしていくたらと思っています。」



江田島市では、平成19（2007）年度から「定住促進事業」をスタートさせました。定住費用の一式を備えた一軒家を利用する「おためし暮らし」「自然派子育て」といったテーマを決めた「空き家見学ツアーやなどにより、江田島市の魅力を手軽に体験することができます。移住者が運営する「交流施設『夢來来』（ゆめきらい）もあり、移住後の生活のサポートも万全の体制で行っています。



おためし暮らしの家

江田島市へ移住を考えている方が、電化製品一式を備えた家で暮らしを体験し、今後の参考にしてもらう制度です。また、既に移住されている方々など地元住民との交流も可能です。この制度は、市外に住所がある方で1週間以上ご利用いただける方に限ります。（1週間単位、または1ヶ月単位で利用可能）


**江田島市の特産品、きゅうり栽培の明日を担う
～若者の挑戦を後押しする「新規就農研修制度」～**

高橋康治さん（30歳）／赤川謙吾さん（29歳）

「新規就農研修制度」は、農業に強い意欲を持ち、江田島市内で新たに就農を希望する方を対象に、花または野菜の栽培に必要な研修を行う制度で、平成24（2012）年度からスタートしました。きゅうりのハウス栽培に取り組む高橋康治さんと赤川謙吾さんも、この研修で栽培技術や経営などについて実践的に学びました。

農協や県と市、そして地域の方々の協力のもと、美味しいきゅうり作りに取り組み、生産の拡充を図っています。

静岡県沼津市出身の高橋さん（左）、吳市出身で埼玉県の農業法人で働いていた赤川さん（右）。二人は独立を志している時に「新規就農研修制度」を知り、夢を叶える場所として江田島市を選びました。

 人が
むすぶ

**定住促進
「しま暮らしを楽しむ」**

江田島市の宝物

（自然と情熱がはぐくんだ特産品）



江田島市は、温暖な気候と陽光に恵まれた地域であり、3F（フルーツ・フラー・フィッシュ）に代表されるように、豊かな自然と人々の情熱によつてはぐくまれてきた様々な特産品があります。

まず、全国ブランドとなっているみかんやネーブルをはじめとする柑橘類の宝庫であり、イチジクゼリー・やネーブルマーマレードなどの加工品も人気です。

次に、花の栽培では、菊・カーネーション・スイートピーなど、季節を彩る花々が訪れる人の目を楽しませてくれます。

そして、カキのむき身生

産量が全国でも屈指の生産

地で、香り豊かで味が濃く、

品質面でも好評を得ており、

1年を通じて食べることができます。

カキ「ひとつぶくん」

もあります。カルシウムたっぷりのちりめんやいりこなど、瀬戸内海ならではの新鮮な魚介類と地元のお酒の相性は抜群です。

このほか、きゅうり栽培は広島県1位の生産量です。

現在、行政、関係団体、民間事業者が一体となって

全国に誇れる安全・安心な「えだじまブランド」の開発を進めており、江田島市の宝物を全国へとアピールしていきます。



特産品のブランド化・ 6次産業化を推進

江田島市は現在、特に力を入れているのがオリーブの栽培で、企業・農協・生産者・行政などで構成する「江田島市オリーブ振興協議会」を中心とし、产地化への取組を進めており、オリーブオイルの商品化が秒読み段階に入りました。また、生産と加工・製造、販売や観光を一体化させた「6次産業化」も推進しており、これをモデルケースとして、付加価値の高い農業の確立に努めています。





1 教育・文化部門

人か育ち
輝くまた

子どもたちが夢や目標を持って学び、育ち、市民一人ひとりが、生涯を通じて、学び、活動し、生きがいを感じ輝くことは、豊かな暮らしの基盤となります。

このため、学校教育では、児童生徒の生きる力を
はぐくむことを目指し、「確かな学力」「豊かな心」「健
やかな体」をバランスよく育成し、その水準の向上



学校教育の充実

学力や体力の向上、道徳教育及び人権教育の推進、グローバル化への対応、キャリア教育など様々な取組を充実させるとともに、開かれた学校づくりを進め、学校・家庭・地域の連携による信頼される学校を目指します。また、安全・安心な教育環境を整備するため、老朽化した校舎などの耐震化、修繕や改修を行います。さらに、教育の情報化に対応し、ICT機器の整備も計画的に進めます。



生涯学習の充実

だれもが生涯を通じて学び、活動し、生きがいを感じて輝いていく社会を実現するため、市民ニーズにあった公民館活動の支援、図書館サービスの充実、美術展など文化・芸術に接する機会の確保・充実、学習拠点となる社会教育施設の整備に取り組みます。また、伝統文化や文化財の保護・継承を進める団体の活性化や文化財の保存・管理を強化し、地域の宝を次世代へと伝えていきます。



スポーツの振興

地域で行う運動会をはじめ、各種スポーツ大会において、スポーツ推進委員や運動普及推進員などと連携し、体力づくりや健康づくりの普及・推進を図ります。総合型地域スポーツクラブを支援し、地域スポーツの振興を図ります。

また、スポーツ活動の拠点となる社会体育施設の計画的な改修・修繕や有効活用を進めます。

協働と交流で創りだす
『恵み多き島』えたじま

市民が必要とし、
求めているサービスを
提供する

<h2>教育・文化</h2> <p>人が育ち、輝くまち</p>	<p>学校教育の充実 生涯学習の充実 スポーツの振興</p>
<h2>産業・観光</h2>	<p>農林業の振興 水産業の振興 商工業の振興 観光の振興</p>
<p>元気な産業・観光を生み出すまち</p>	
<h2>福祉・保健</h2>	<p>子育て環境の充実 保健・医療の充実</p>
<p>健康で安心して暮らせるまち</p>	<p>高齢者福祉・介護の充実 障害者福祉の充実 社会福祉の充実</p>
<h2>生活・環境</h2>	<p>人権尊重と男女共同参画の推進 公衆衛生の確保</p>
<p>生活と環境を守り、高めるまち</p>	<p>自然環境の保全</p>
<h2>安全・安心</h2>	<p>大規模災害時の危機管理 総合的な消防体制の充実・強化</p>
<p>災害に強く、安心して暮らせるまち</p>	<p>暮らしの安全の確保</p>
<h2>基盤</h2>	<p>都市基盤の整備 生活基盤の整備</p>
<p>しっかりとした基盤を備えたまち</p>	<p>生活交通の確保・充実</p>
<h2>地域</h2>	<p>都市との交流・定住の促進 コミュニティの振興</p>
<p>地域が元気で、にぎやかなまち</p>	

「住みよさ」を備え、「つながり」「地域資源」を生かして
ずっと住み続けたい、住んでみたい、魅力あふれる島

新たな人の流れや
経済活動を創り出す

え “絵になる島”
瀬戸内海で最も美しい
島嶼の島の実現

た “楽しめる島”
海や島の自然を生かした
観光、交流人口の拡大

じ
“自慢できる島”
地域ブランドと人材育成
による新たな魅力づくり

ま “また来たい島” リピーター獲得に向けた 環境整備



2 産業・観光部門

元気な産業・
観光を生み出すまち



地や有害鳥獣問題、後継者・担い手不足などの課題の解決を進めます。

さらに、コミュニティ・ビジネスの育成や、アウトドア・自然体験を核とした体験型観光の振興などにより、「元気な産業・観光を生み出すまち」を目指します。



水産業の振興

漁場環境の改善などを図り、「つくり育てる漁業」に取り組みます。

また、ブランドカキ「ひとつくん」の生産・販売とともに、広島県の代表的なカキの生産地として高品質なカキの生産を目指します。



農林業の振興

農業用水の確保や農道、用水路など生産基盤の整備に努めるとともに、農業後継者の育成や認定農業者制度の活用を進め、地域営農集団や中核農家の育成を図ります。

商工業の振興

雇用の場の確保により、若者の流出を抑制し、UJIターンを推進するため、地場産業への支援や企業の誘致を推進します。また、創業・起業者や新分野への進出に対し、経費の助成などの支援を行います。



観光の振興

江田島市ならではの観光資源の発掘・魅力づくりのため、島特有の立地や自然を生かした体験メニューの開発・PRに取り組みます。

また、宿泊施設やサイクリング、シーカヤックの振興とともに、観光施設の整備を進めます。

3 福祉・保健部門

健康で安心して暮らせるまち



乳幼児期から高齢期まで、すべての市民が家庭や地域で、元気でいきいきと安心して、日常生活が送れることは、幸せの基本といえます。

このため、市民ニーズなどを踏まえながら、子育て環境や生涯を通じた保健・医療、高齢者福祉・介護、障害者福祉、社会福祉の充実に着実に取り組みます。

特に、子育て支援対策の充実や、専門・救急医療への対応、高齢化の更なる進展に対応した高齢者福祉・介護サービスの確保・充実を進めることにより、「健康で安心して暮らせるまち」を目指します。

子育て環境の充実

地域で親子を見守る体制を整え、児童虐待を未然に防止し、ひとり親家庭の自立に向けた支援を行います。また、保育園や児童館を整備し、ハード・ソフトの両面から子育て支援サービスの拡充を図ります。

保健・医療の充実

健康寿命の延伸を図るために、市民一人ひとりが主体的に取り組むことができる健康づくりを推進します。また、医療サービスを適切に受け取ることができるよう、地元の医師会や近隣自治体と連携し、救急医療体制を確保します。



高齢者福祉・介護の充実

高齢者の社会参加を進め、生きがいを持って生活できる環境に努めます。また、介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、仕組みづくりに取り組みます。

障害者福祉の充実

市内の各種法人に障害別の相談窓口を増やし、障害者が社会的自立を図るために就労支援を行います。また、障害者福祉施設の開所を支援し、継続して働くことのできる体制を整備します。

社会福祉の充実

生活保護に至る前段階の自立支援策を強化し、相談窓口や給付金などセーフティネットを確保します。また、地域における様々な生活課題を解決するため、地域福祉活動とボランティアの育成を進めます。



4 生活・環境部門

「生活と環境を守り、高めるまち」



さらに、市民との協働による5Rの推進や再生可能エネルギーの導入促進など循環型社会の形成に取り組むとともに、豊かな自然を次世代に引き継ぐため、海ゴミの削減をはじめとした環境美化・自然環境保全活動を推進することにより、「生活と環境を守り、高めるまち」を目指します。



自然環境の保全

江田島市は多島美の瀬戸内海に位置し、瀬戸内海国立公園に指定された地域もあります。自然と人が仲良く共生できる島を目指し、自然環境や生物多様性の保全に取り組むとともに、自然とのふれあいの場や機会の確保を図ります。また、エネルギーを上手に活用する地球環境にやさしいまちを目指し、太陽光発電システムの設置や省エネ・節電対策の推進など、技術革新を踏まえながら、地球温暖化対策に取り組みます。



公衆衛生の確保

近年、「脱温暖化（地球温暖化対策のライフスタイルづくり）」や「次世代を担う子どもたちと一緒にした活動」が公衆衛生や環境美化の重点的な課題となっています。江田島市は公衆衛生推進協議会など各種団体と連携し、地域における公衆衛生・環境美化の取組を促進します。また、循環型社会を形成するため、各種団体と連携しながら、ゴミ排出抑制・減量化やリサイクル及び適正処理を推進します。

5 安全・安心部門

「災害に強く、安心して暮らせるまち」



市民生活や都市活動において、万一の災害や事故が発生した場合、地域や行政からの支援は最後の砦であり、日ごろから万全の備えが求められます。

大規模な自然災害等が頻繁に発生している今日的な状況を鑑みながら、大規模災害時等の危機管理や消防・救急体制については、着実に一層の充実・強化を進めています。

特に、発生が予想されている南海トラフ地震に備えた避難シミュレーションや避難所等については、早急に体制の整備を進めます。

あわせて、日ごろからの火災予防対策や防犯・交通安全対策、消費者保護などに着実に取組ことにより、「災害に強く、安心して暮らせるまち」を目指します。

大規模災害時の危機管理

大規模災害発生時の被害を最小限化するため、自主防災組織の育成や地域防災活動の支援を行い、地域防災力を向上させます。また、避難生活に対するきめ細やかな支援を実施するため、要配慮者や男女双方の視点、プライバシーの確保などに配慮し、避難所設備の充実と改善を行います。



総合的な消防体制の充実・強化

消防車両や防災拠点施設、通信施設の更新・整備を進め、これらの機器を取り扱う消防職員を育成し、災害活動対応能力を向上させます。また、救急車両の整備や救急救命士の育成強化により、救命率の向上を図ります。



暮らしの安全の確保

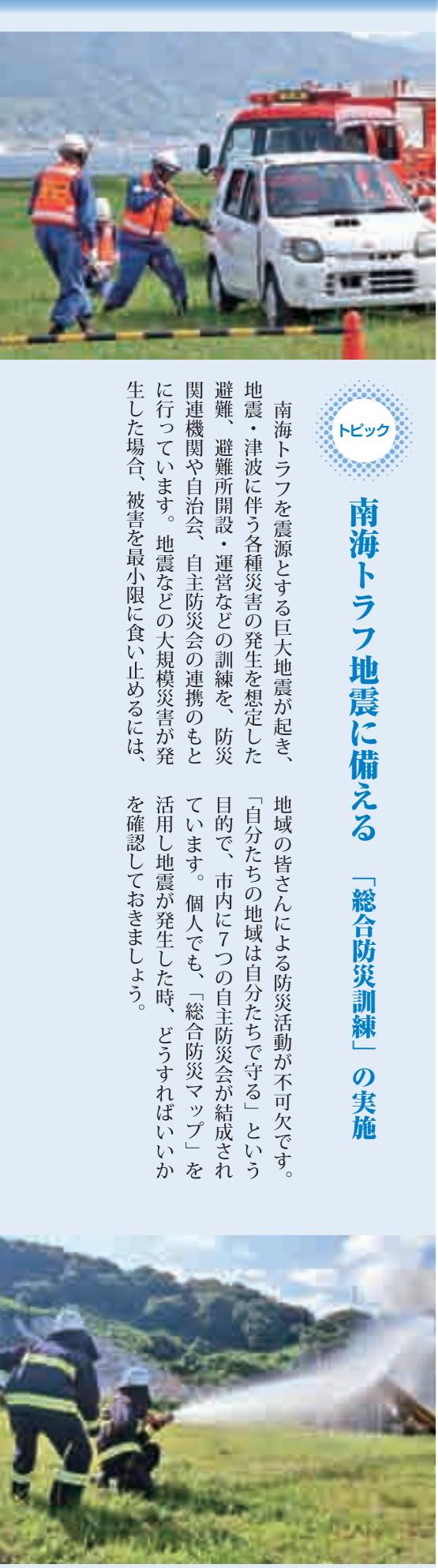
防犯意識や防犯対策施設の整備とともに、交通安全思想の普及に努め、「安全・安心なまちづくり」を推進します。また、消費者被害の防止と救済のための窓口を設け、消費生活相談員による相談体制の充実に努めます。



トピック 南海トラフ地震に備える 「総合防災訓練」の実施

南海トラフを震源とする巨大地震が起き、地震・津波に伴う各種災害の発生を想定した避難、避難所開設・運営などの訓練を、防災関連機関や自治会、自主防災会の連携のもとに行っています。地震などの大規模災害が発生した場合、被害を最小限に食い止めるには

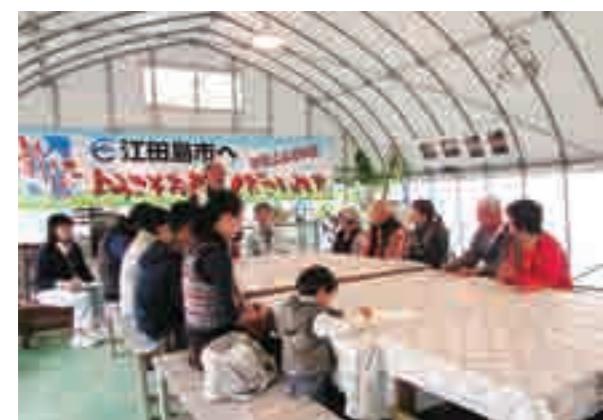
地域の皆さんによる防災活動が不可欠です。「自分たちの地域は自分たちで守る」という目的で、市内に7つの自主防災会が結成されています。個人でも、「総合防災マップ」を活用し地震が発生した時、どうすればいいかを確認しておきましょう。





過疎化・高齢化が進む中で、いかにコミュニティを維持し、活性化を図るかは、市内のいずれの地域においても、先送りできない課題となっています。

このため、「体験型修学旅行」など都市住民との交流機会の拡大や、都市部からの2地域居住の促進などを進めることで、地域の活性化を図るとともに、



都市との交流・定住の促進

都市住民との交流を通して交流人口の増加を図るために、「体験型修学旅行」の受け入れなどの事業を推進します。また、都市部の意欲のある人材を受け入れ、地域活性化を図るため、移住者の地域おこし活動の支援や農林水産業の応援、生活支援などを行う「地域おこし協力隊」事業を推進します。

定住の促進については、「おためし暮らしの家」「空き家見学ツアー」など、えたじま暮らし体験の促進や移住者の住宅確保支援、定住促進事業補助金など、各種の定住促進策を実施するとともに、移住後のミスマッチが生じないよう、「移住者交流会」などアフターフォローを行います。市内外の未婚者のマッチングのため婚活イベントも開催します。

地域活動や拠点整備への支援などを通じて、市民が参加する協働のまちづくりの浸透を図ります。

さらに、江田島市の魅力発信やUJIターンを受入れる環境づくりを進め、定住者の拡大を図ることにより、「地域が元気で、にぎやかなまち」を目指します。



コミュニティの振興

持続可能な地域自治組織を育てるため、「まちづくり協議会」の設置及びその充実に取り組みます。こうした活動の拠点となるのが地域の集会施設ですが、老朽化しているものや利用度の少ないものもあります。各地域・地区の集会施設等の統合化や複合化を行い、市民の利便性やニーズに対応した地域活動拠点の確保と施設・設備の機能向上に取り組みます。

また、「島から世界へ～21世紀を主体的に心豊かに生きる～」というテーマのもと、外国人も含め、すべての市民が、国・地域・民族などの違いによらず、互いが尊重され、対等の関係を保ちながら、地域の一員としてともに暮らせるよう、国際化・多文化共生社会の実現に取り組みます。

7 地域部門

「地域が元気で、にぎやかなまち」



道路や港湾、上下水道などの都市基盤、住宅、公園等の生活基盤及び生活交通は、市民生活や都市活動を支える上で、必要不可欠の基盤であり、道路や防災インフラを中心に未整備区間・箇所の計画的な整備を進めます。

また、これまで整備してきた都市・生活基盤については、今後その維持・管理が大きな課題となるこ

とから、施設の長寿命化を計画的に推進します。

一方、生活交通については、海上・陸上を組み合わせた合理的・効率的な交通体系の再構築を行うことにより、サービスの維持・存続を図ります。

これらの取組により、市民生活や都市活動を支えることのできる「しっかりとした基盤を備えたまち」を目指します。



都市基盤の整備

国道や県道、市道の整備を行い、市内外のネットワーク形成を進めるとともに、サイクリングロードの整備により、交流人口の増加を目指します。また、市民の通勤・通学や観光・物流・漁業振興を支えるため、港湾・漁港の計画的な整備を進めます。さらに、砂防ダム・急傾斜地の整備や高潮対策等の防災事業、配水管の耐震化や海底管の布設等の上水道整備、下水道の整備と水洗化にも取り組みます。



生活基盤の整備

「都市計画マスタープラン」を基軸に、大規模な未利用地の有効活用や中心市街地の活性化を進めます。これと並行して、市営住宅の建替えや改修、民間住宅の耐震改修等により住宅・住環境を整備します。また、市民参加による公園管理を進めるとともに、将来のまちづくりを見据えた公共施設の再編・整備、住民ニーズに叶った情報通信基盤の整備・活用に向けた取組などを推進します。



生活交通の確保・充実

フェリー、高速艇の利用者は減少傾向にありますが、航路は江田島市民の生活や交流の促進に不可欠な存在です。一方、市内のバス等の利用者も今後減少していくことが懸念されています。公共交通の利用状況やニーズ、その役割や効果などを総合的に検討しながら、海上交通と陸上交通が一体となった利用しやすい公共交通体系の構築を図ります。

6 基盤部門

「しっかりとした基盤を備えたまち」

行政

平成 16年	11月 江田島市誕生（4町合併） 12月 初代市長に曾根薰氏が就任
平成 17年	4月 江田島市総合計画基本構想を策定 8月 切串浄化センターが完成 〃 合併記念式典イベントを開催
平成 18年	2月 鹿川小学校が完成 〃 西能美学校給食共同調理場が完成 7月 三高浄化センター通水式を開催 8月 県営水道の送水トンネル管崩落事故が発生
平成 19年	3月 江田島市総合計画を策定 〃 小用港旅客ターミナルが完成
平成 20年	4月 中町港旅客ターミナルが完成 〃 江田島バスが市内全域で運行開始 5月 子育て支援センターを開設 8月 江田島中学校が完成 12月 2代目市長に田中達美氏が就任
平成 21年	3月 県立広島大学と包括協定を締結 12月 江田島小学校が完成 〃 市民憲章、市の花・木・魚が決定
平成 22年	4月 市制5周年記念切手シートが完成 10月 予約型乗合タクシー「おれんじ号」運行開始
平成 23年	2月 柿浦小学校屋内運動場耐震補強及び大規模改修工事が完成 3月 大柿中学校普通教室南棟耐震補強及び大規模改修工事が完了 4月 ドリームのうみを宮城県気仙沼市の大島汽船へ貸与 6月 江田島市オリーブ振興協議会を設立 9月 江田島海生体験交流協議会を設立
平成 24年	6月 デジタル防災行政無線の運用開始
平成 25年	9月 能美中学校が完成 11月 三高小学校西校舎耐震補強工事が完了
平成 26年	1月 中町小学校屋内運動場耐震補強及び大規模改修工事が完了 2月 第2次江田島市総合計画基本構想を策定 4月 江田島市・広島市海生交流協定を締結 6月 前処理センターが完成（し尿処理施設） 8月 光回線が市内全域で開通 10月 市制10周年記念切手シートが完成 11月 市制10周年記念式典を開催
平成 27年	2月 鹿川小学校屋内運動場耐震補強及び大規模改修工事が完成

議会



市制10周年記念式典
平成26年11月3日 沖美ふれあいセンターにて挙行されました。